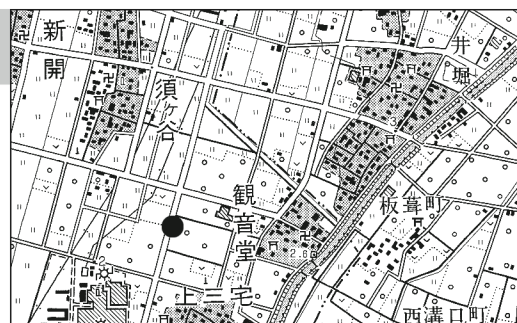


さんのう
山王遺跡

所在地 稲沢市平和町
(北緯35度13分30秒 東経136度45分10秒)
調査理由 県道津島稲沢線道路改築
調査期間 平成17年11月～平成18年3月
調査面積 738㎡
担当者 石黒立人・加藤博紀・永井邦仁



調査地点 (1/2.5万「清洲」)

調査の経過 本遺跡の発掘調査は、県道津島稲沢線道路改築に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成17年11月から18年3月にかけて須ヶ谷遺跡・西海塚遺跡とともに実施した。調査面積は738㎡である。

立地と環境 本遺跡は、稲沢市平和町に所在し、三宅川やそれに先行する河道によって形成された微高地上に位置する。近隣には、弥生時代前期の野口・北出遺跡や同時代中期の一色青海遺跡、奈良時代の寺院跡の三宅廃寺などがある。

調査の概要 昭和40年以降に実施された土地区画整理事業によって行われた盛土などの表土を約30cm除去すると、検出面が現れる。検出される遺構は、一番南に位置するA区に北東方向から南西方向に走る自然流路1条、B区に井戸2基、自然流路と同方向の溝6条以上などがある。自然流路は、三宅川成立以前のもので、自然堆積によって埋められ近世以降においては水田として利用されていた。それは、明治期に作成された地籍図からも読み取ることができる。2基確認できた井戸は、ほぼ掘削できた井戸 (SE01) は、曲物などの構造物をもち、遺物は奈良時代から平安時代までの須恵器や灰釉陶器が多い。しかし、13世紀の遺物が若干存在するので、井戸としての掘削時期はその時期だと思われる。もうひとつの井戸 (SE02) も、遺物は少ないながらも、堆積状況が似ているので同時期のものと思われる。その他の遺構は、近世後期から現代までの耕作に伴うものと思われる。 (加藤博紀)



SE01遺物出土状況 南東から